

I 調査概要

1. 調査の概要
2. 結果の概要

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

沖縄観光に関する県民の意識やニーズ及び行政に対する要望等を把握するとともに客観的かつ合理的な分析を行い、実効性の高い観光施策の企画・立案・評価及び沖縄観光ブランドの構築に資することを目的とする。

(2) 調査項目

- ①観光客との接点 (Q1～Q2)
- ②沖縄観光に対する意識 (Q11～Q13、Q5～Q7)
- ③観光産業に対する意識 (Q8～Q10、F7)
- ④観光施策の重要度・達成度 (Q4)
- ⑤観光客来訪による影響 (Q3)
- ⑥観光税の導入に対する意識 (Q14)
- ⑦持続可能な観光に対する意識 (Q15～Q17)
- ⑧将来の沖縄観光のあり方や観光行政に関する意見 (Q18)
- ⑨回答者の年齢、性別、職業などの基本属性 (F1～F6、F8)

(3) 調査対象

- ・県内に居住する満15歳以上、満75歳未満の男女

(4) 調査方法

郵送調査（調査対象世帯の郵便受けに調査票を投函し、郵送又はWEB経由で回収）

(5) 調査期間

令和6年1月25日(木)～令和6年2月25日(日)

（参考）前回調査の調査期間

郵送調査 : 令和4年12月22日(木)～令和5年2月19日(日)

WEB アンケート調査 : 令和5年2月13日(月)～令和5年2月15日(水)

(6) 回収数

有効回収数 2,286人

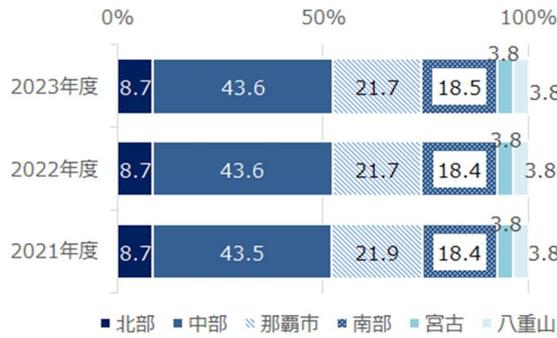
（参考）前回調査の有効回収数 2,181人

(7) 集計方法

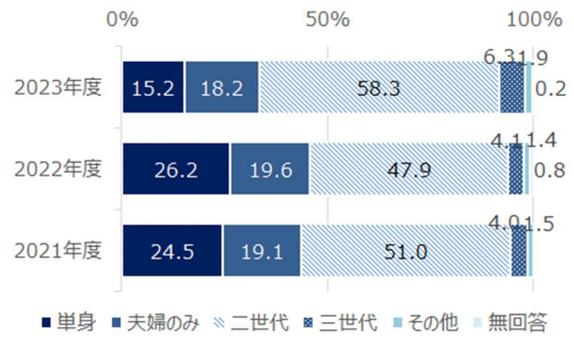
沖縄県の人口構成に合わせるため、地域別、性別、年代別の人口構成比をウェイトとしてサンプルに重みづけを行う加重平均によって算出した。ただし性別で「回答しない」を選択したサンプルについては地域別、年代別の人口構成比で重みづけを行った。

(8) 回答者のプロフィール

地域別構成比 (%)



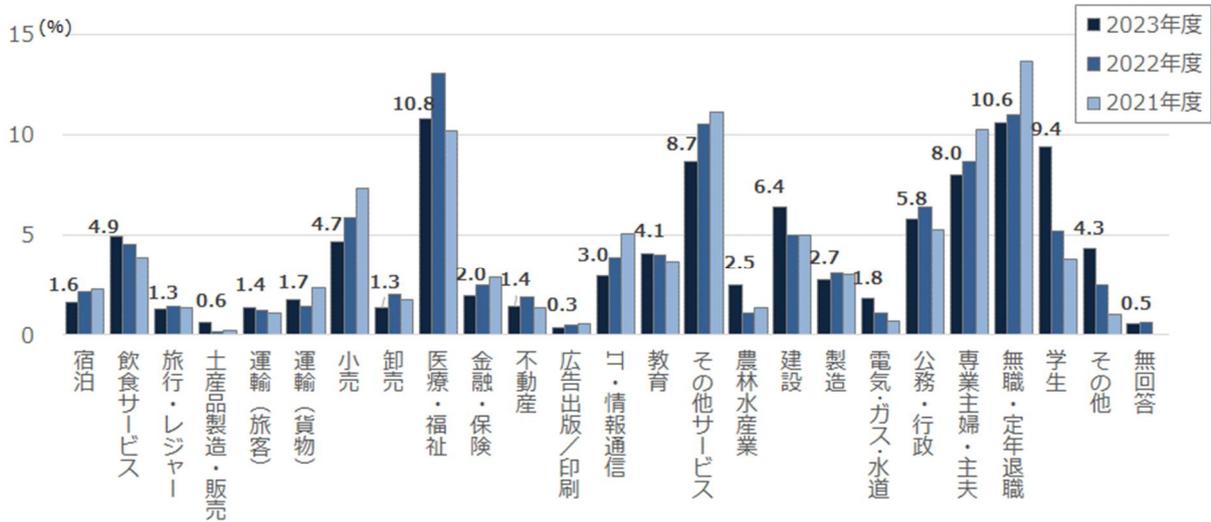
家族構成比 (%)



性・年代別構成比 (%)



職業別構成比 (%)



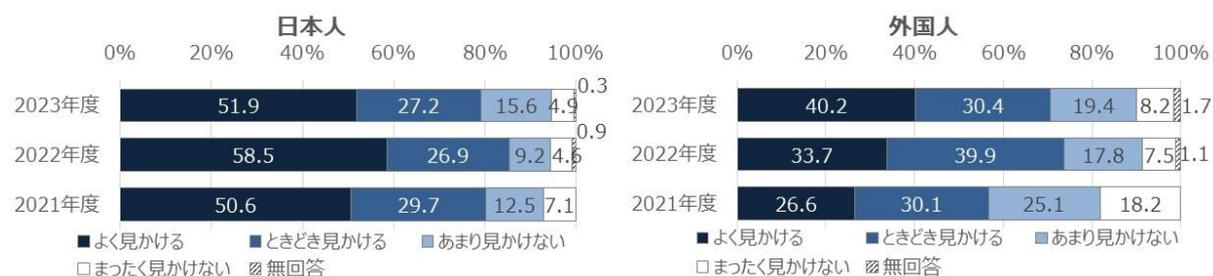
(注) 調査結果中の合計値は、四捨五入の関係で一致しない場合がある。

2. 結果の概要

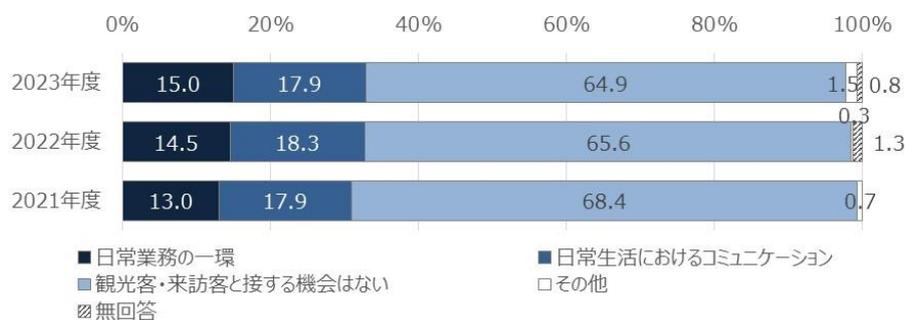
1. 観光客との接点

- ・観光客を「よく見かける」割合は、日本人 51.9%、外国人 40.2% と日本人が外国人を上回る。前回調査と比べると、外国人観光客を見かける頻度が増加している。
- ・観光客と接する機会は、「日常業務の一環で接している」が 15.0%、「日常生活におけるコミュニケーションで接している」が 17.9%、「接する機会はない」が 64.9%であった。

図表 観光客を見かける頻度



図表 観光客と接する機会

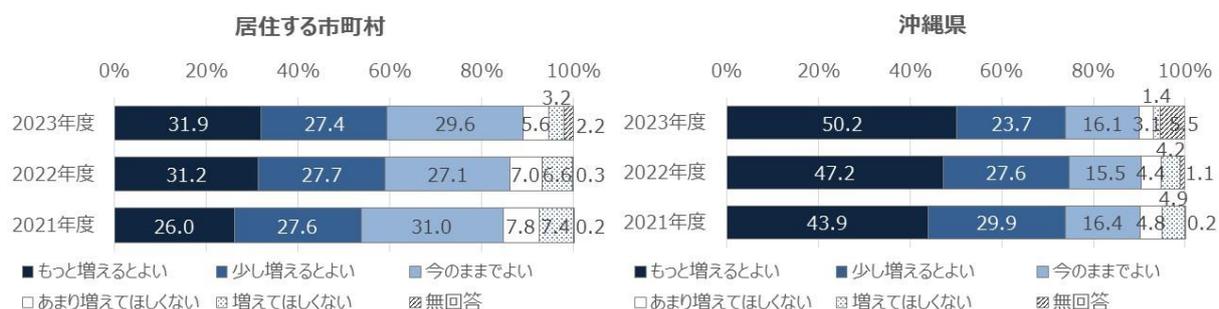


2. 沖縄観光に対する意識

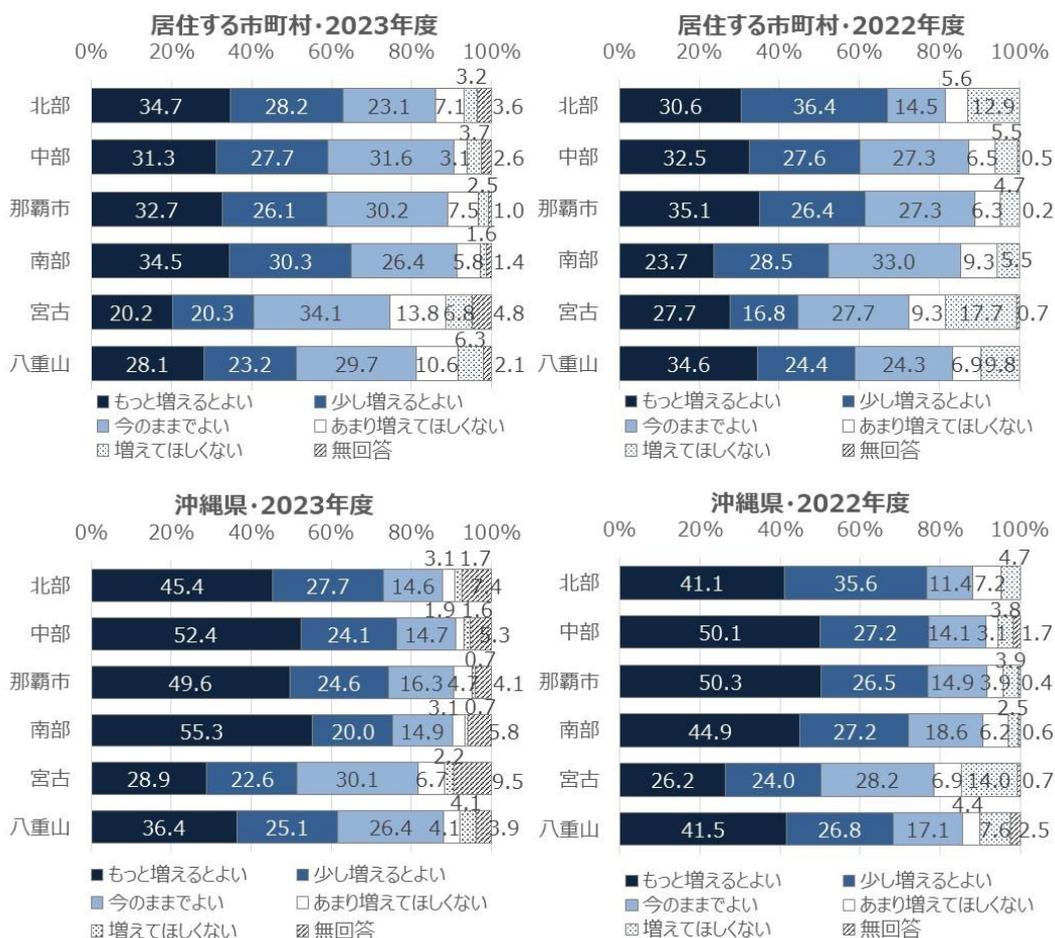
(1) 日本人観光客の来訪に対する考え

- ・日本人観光客の来訪に関して、沖縄県全体としては「増えてほしい層（もっと増えるとよい＋少し増えるとよい）」が73.9%を占めるのに対し、自分が居住する市町村については「増えてほしい層」は59.3%に留まる。沖縄県全体としては増えてほしいが、居住市町村は今のままでよい、というギャップがみられた。
- ・前回調査と比べると、居住市町村、沖縄県ともに「増えてほしい層」に大きな変動はないが、「もっと増えるとよい」はやや増加した。

図表 日本人観光客の来訪に対する考え



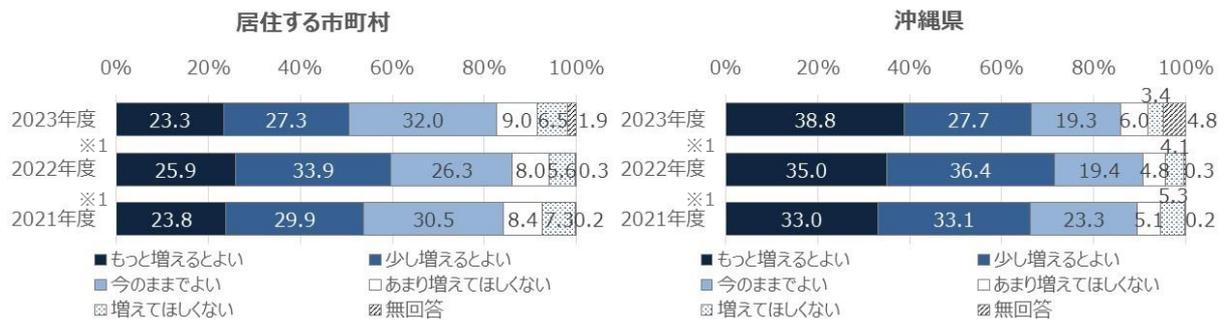
図表 日本人観光客の来訪に対する考え（地域別）



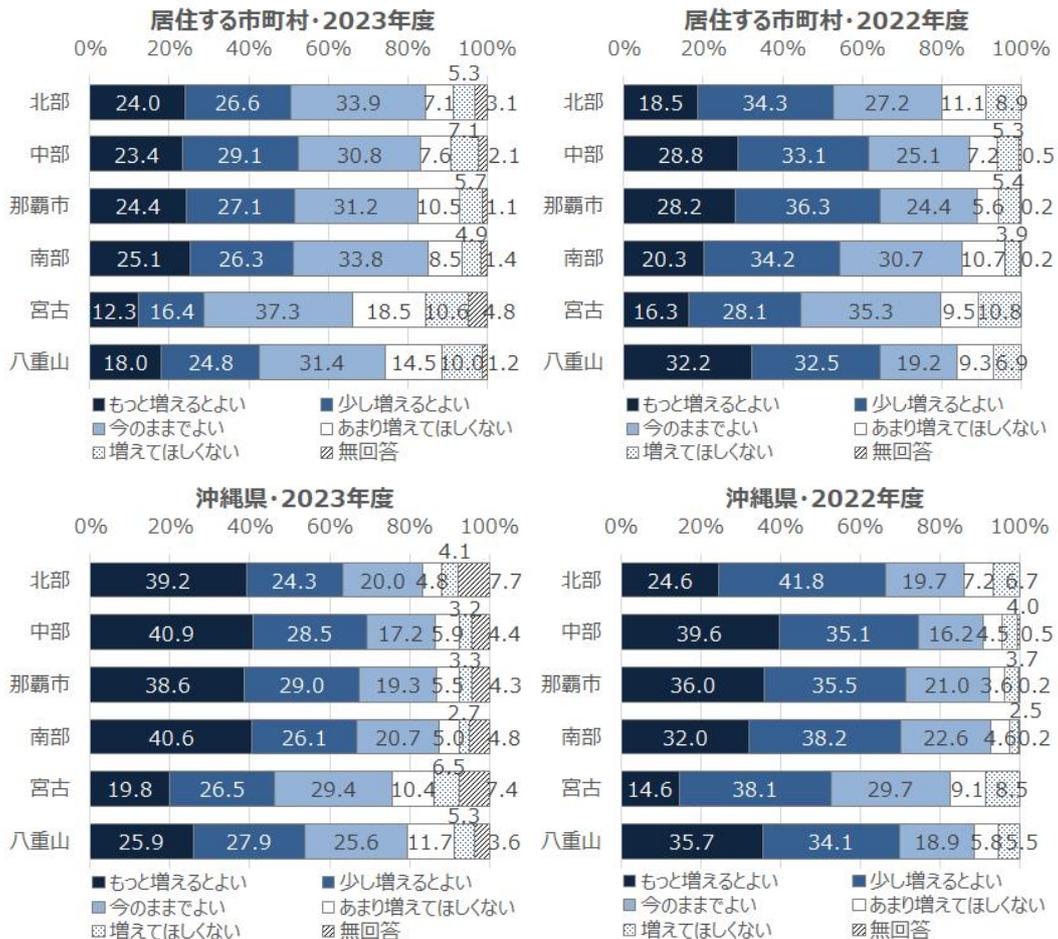
(2) 外国人観光客の来訪に対する考え

- ・居住する市町村への外国人観光客の来訪に関しては、「増えてほしい層（もっと増えるとよい＋少し増えるとよい）」50.6%、「増えてほしくない層（あまり増えてほしくない＋増えてほしくない）」15.5%であった。沖縄県全体としては「増えてほしい層」が66.5%を占めた。日本人観光客同様、外国人観光客についても、沖縄県全体と居住市町村とではギャップがみられた。
- ・前回調査と比べると、沖縄県全体、居住市町村ともに「増えてほしい層」が減少しているが、沖縄県への来訪に対しての「もっと増えるとよい」は増加した。

図表 外国人観光客の来訪に対する考え



図表 外国人観光客の来訪に対する考え（地域別）

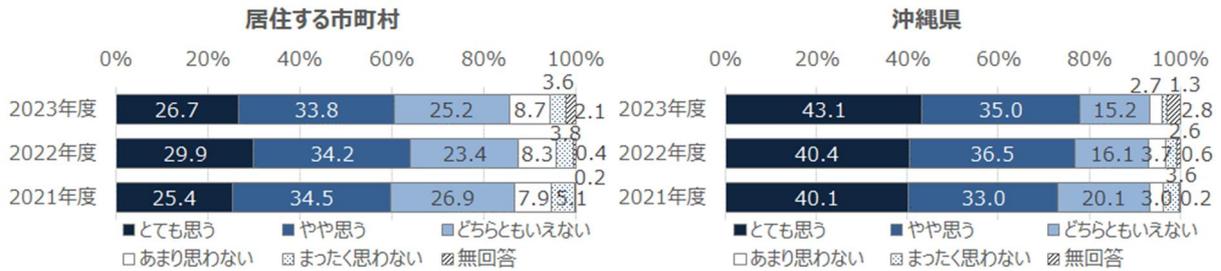


※1：2022年度までの調査票では、各選択肢は「賛成」「まあ賛成」「どちらともいえない」「やや反対」「反対」としていたため、2022年度調査までの結果と単純に比較することはできない。

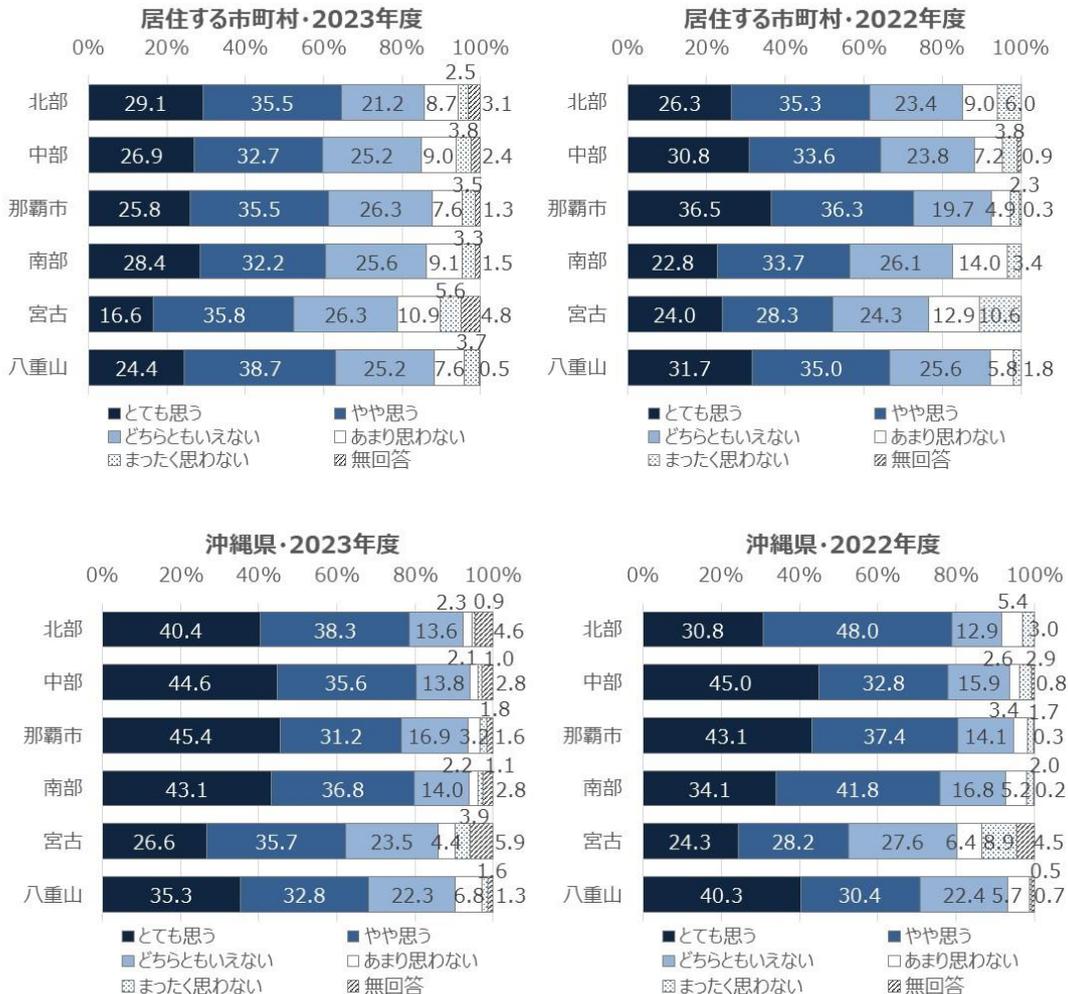
(3) 観光発展への期待

- ・居住する市町村の観光の発展を期待する人の割合は「期待する派（とても思う＋やや思う）」が60.5%を占め、「期待しない派（あまり思わない＋まったく思わない）」の12.3%を大幅に上回った。沖縄県全体としては「期待する派」が78.1%を占めており、観光の発展への期待は大きい。
- ・前回調査と比べると、居住市町村においては「期待する派」が減少した。

図表 観光がもっと盛んになるといいと思うか



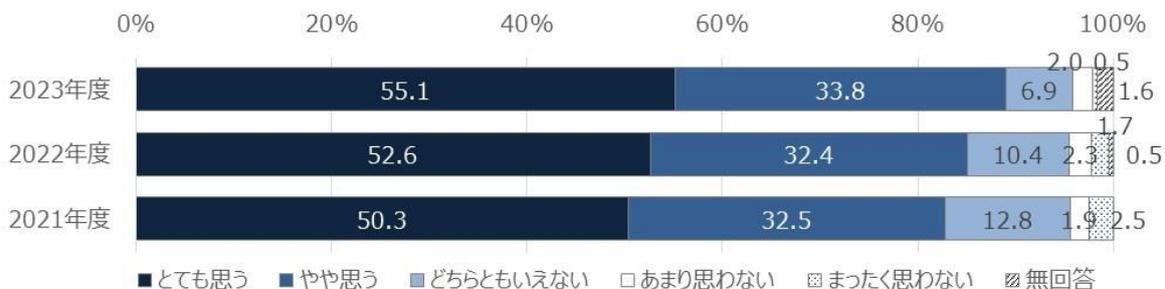
図表 観光がもっと盛んになるといいと思うか（地域別）



(4) 沖縄の発展における観光の重要性

- ・沖縄の発展に観光が重要な役割を果たしていると思うか尋ねたところ、「とても思う」が55.1%と約半数を占めた。「やや思う」を加えると、88.9%の人が観光の重要性を評価している。いずれも前回調査より増加した。

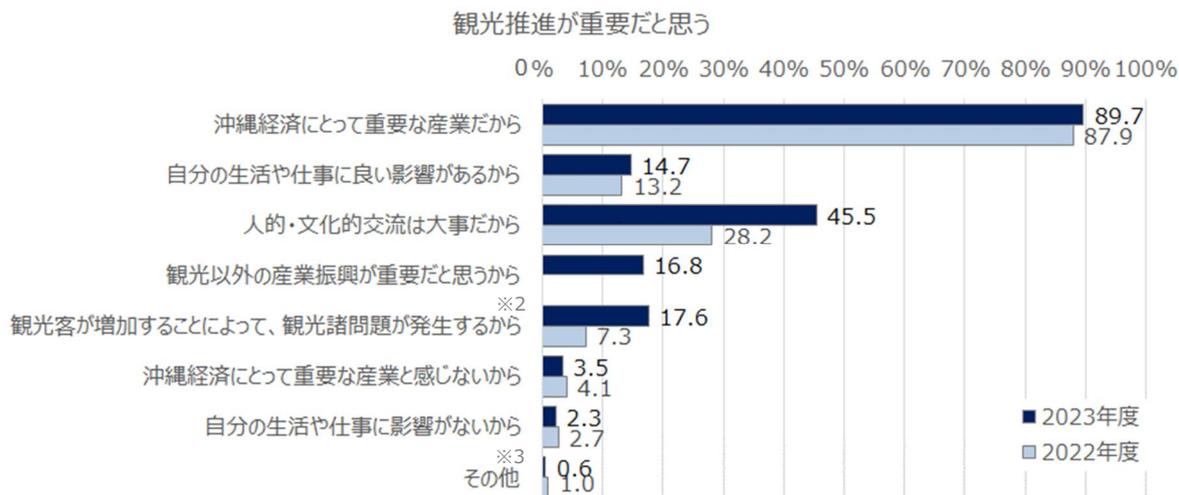
図表 沖縄の発展に観光が重要な役割を果たしていると思うか



(5) 沖縄の発展における観光の重要性の理由

- ・観光の重要性について、その理由を尋ねたところ、観光推進が重要だと思う層（「とても思う」「やや思う」と回答）は、89.7%が「沖縄経済にとって重要な産業だから」を理由として挙げた。前回調査と比べると「人的・文化的交流は大事だから」が大きく増加した。一方、観光推進が重要だと思わない層（「あまり思わない」「まったく思わない」と回答）は、47.9%が「観光客が増加することによって、観光諸問題が発生するから」、40.4%が「観光以外の産業振興が重要だと思うから」を理由として挙げた。前回調査と比べると「観光客が増加することによって、観光諸問題が発生するから」が大きく増加した。

図表 沖縄の発展における観光の重要性の理由【複数回答】

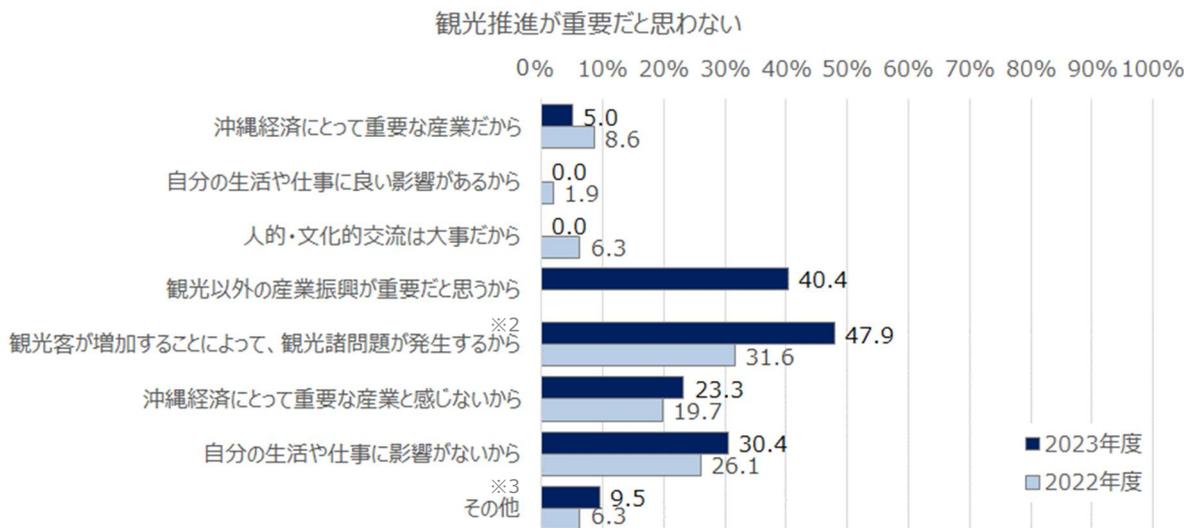


※1：一部の選択肢は2023年度調査で新設されたものであるため、2022年度の結果が表示されていない。

※2：2022年度までの調査票では「オーバーツーリズムの状況が発生するから」と表現されていた。

※3：「その他」の自由記述で挙げられた内容：魅力があり差別化できるから など

図表 沖縄の発展における観光の重要性の理由【複数回答】（続き）



※1：一部の選択肢は2023年度調査で新設されたものであるため、2022年度の結果が表示されていない。

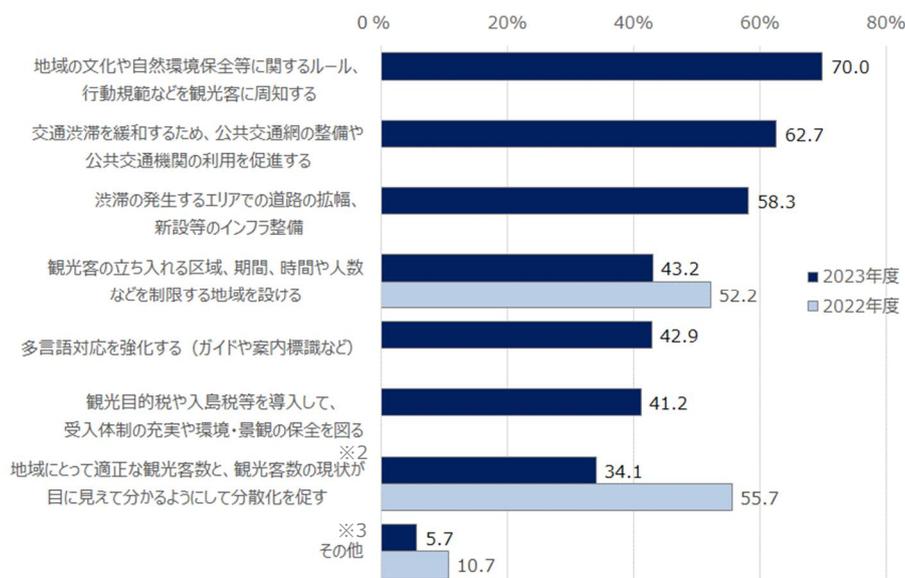
※2：2022年度までの調査票では「オーバーツーリズムの状況が発生するから」と表現されていた。

※3：「その他」の自由記述で挙げられた内容：コロナで大打撃を受けたから／いつまでも上向きとは限らないから など

(6) 観光諸問題への対応

- 観光の重要性に関する理由について「観光客が増加することによって、観光諸問題が発生するから」と回答した人に、考えられる対策について尋ねたところ、「地域の文化や自然環境保全等に関するルール、行動規範などを観光客に周知する」が70.0%、「交通渋滞を緩和するため、公共交通網の整備や公共交通機関の利用を促進する」が62.7%、「渋滞の発生するエリアでの道路の拡幅、新設等のインフラ整備」が58.3%と多かった。

図表 「観光諸問題」に関する対応【複数回答】



※1：一部の選択肢は2023年度調査で新設されたものであるため、2022年度の結果が表示されていない。

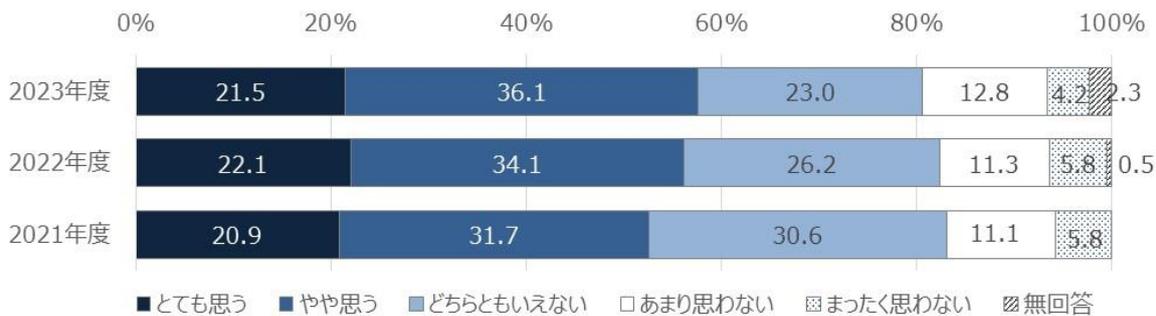
※2：2022年度までの調査票では「地域にとって適正な観光客数と、観光客数の現状が目に見えて分かるようにする」としていたため、2022年度調査の結果と単純に比較することはできない。

※3：「その他」の自由記述で挙げられた内容：民泊のトラブル対策／開発の規制など

(7) 観光の発展と生活の豊かさとのつながり

- ・観光が発展すると自分の生活も豊かになると思うかについては、「とても思う」「やや思う」を合わせた割合が57.6%であり、半数以上の人が生計の豊かさにつながっていると認識している。
- ・前回調査と比べると「とても思う」の割合に大きな変化は見られないが、「とても思う」「やや思う」を合わせた割合はやや増加した。

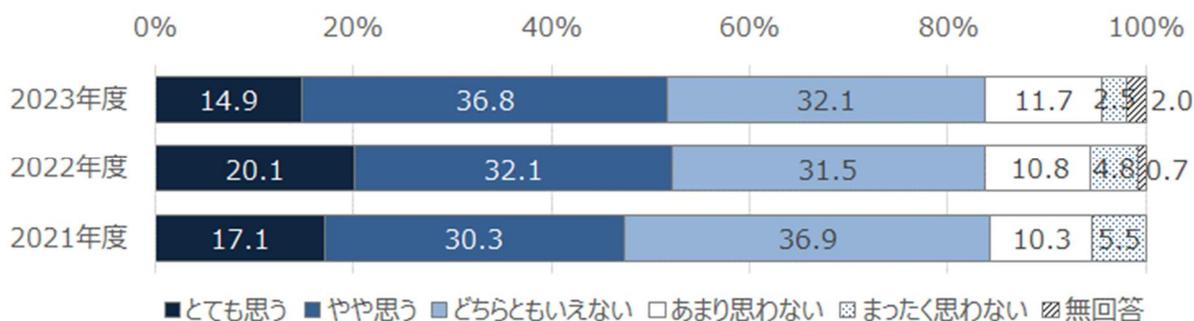
図表 観光が発展するとあなたの生活も豊かになると思うか



(8) 沖縄の発展と住民の幸福とのつながり

- ・観光が発展する沖縄に居住することであなたは幸せを感じられると思うかについては、「とても思う」「やや思う」を合わせた割合は51.7%であり、5割強の人が幸せを感じられると認識している。
- ・前回調査と比べると「とても思う」が減少した。

図表 観光が発展する沖縄に居住することであなたは幸せを感じられるか



3. 観光産業に対する意識

(1) 観光産業への就業意向・就業推奨意向

- ・未就業者に観光産業への就業意向について尋ねたところ、「働きたい層（働きたい+やや働きたい）」は 20.1%となり、前回調査と比べて増加した。一方、「働きたくない層（働きたくない+あまり働きたくない）」は 40.7%となり、前回調査と比べて減少した。
- ・一方、未就業者の子どもがいる人に対し、観光産業への就業推奨意向について尋ねたところ、「働かせたい層（働かせてみたい+やや働かせてみたい）」が 15.6%となり、前回と同程度の水準であった。一方、「働かせたくない層（あまり働かせたくない+働かせたくない）」は 31.1%と前回調査から減少した。

図表 観光産業への就業意向（未就業者のみ）



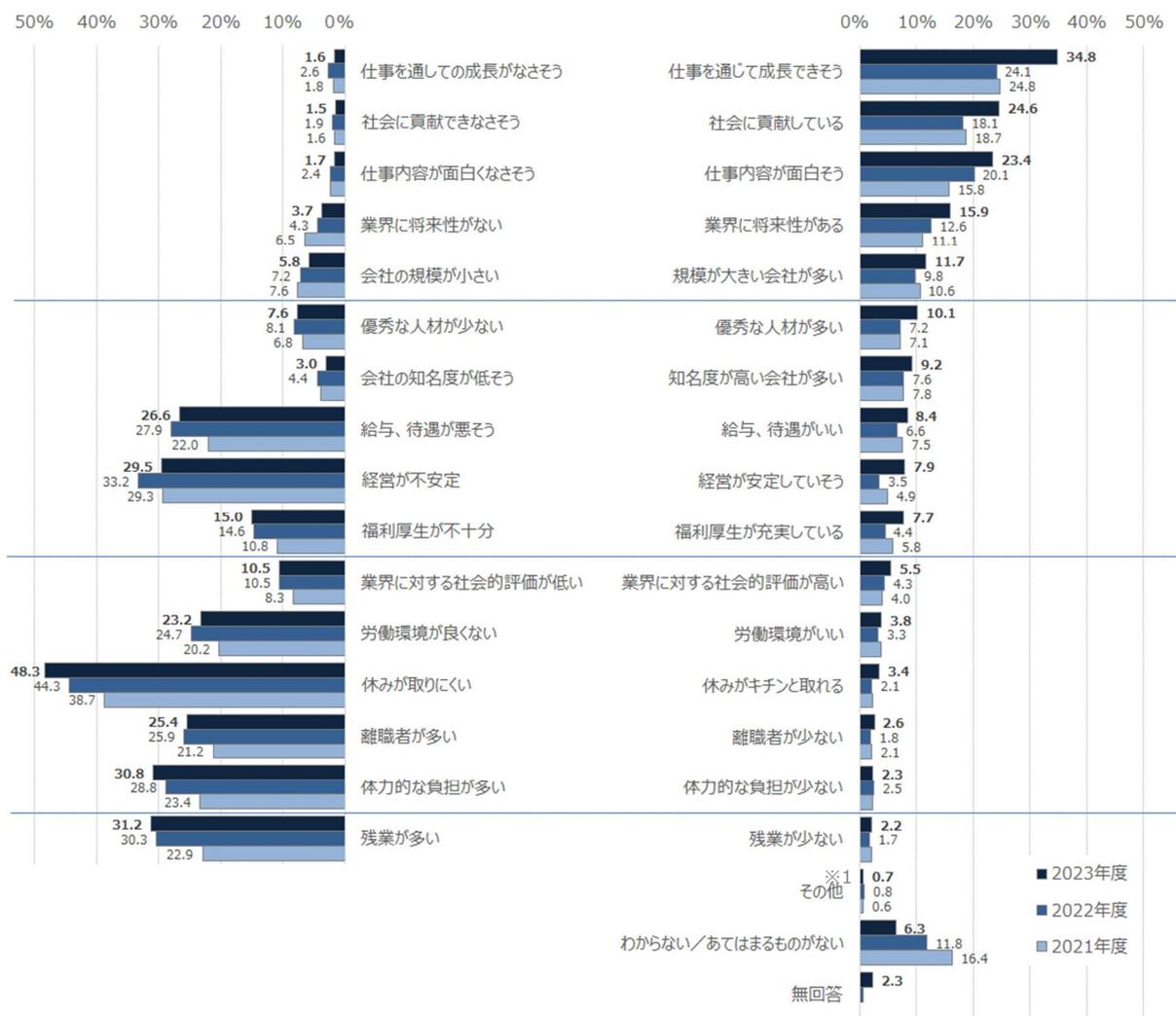
図表 観光産業に対する就業推奨意向（子どもが未就業者のみ）



(2) 観光産業のイメージ

- ・観光産業のイメージとしては、「休みが取りにくい」が48.3%で最多となった。前回調査と比べると増加している。
- ・以下、マイナスのイメージでは「残業が多い」31.2%、「体力的な負担が多い」30.8%、「経営が不安定」29.5%と続く。
- ・プラスのイメージでは、「仕事を通じて成長できそう」34.8%、「社会に貢献している」24.6%、「仕事内容が面白そう」23.4%が多く、いずれも前回調査と比べると増加している。
- ・前回調査同様、仕事内容にはプラスのイメージを抱いているものの、勤務形態や待遇面への不安があらわれる結果となった。

図表 観光産業のイメージ【複数回答】

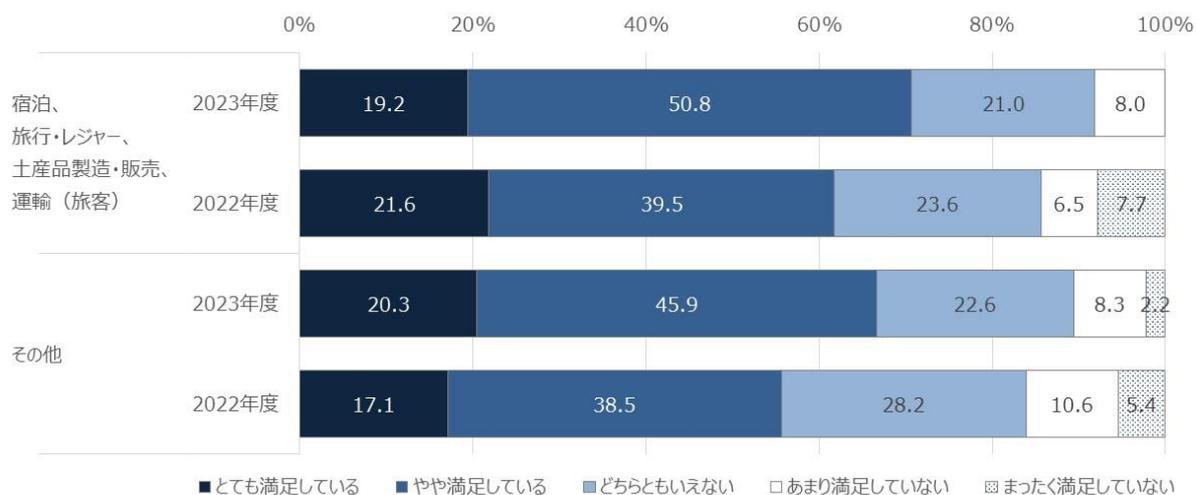


※1：「その他」の自由記述で挙げられた内容：人材が不足している など

(3) 観光産業従事者の職業満足度

- ・観光産業従事者（宿泊、旅行・レジャー、土産品製造・販売、運輸（旅客））の職業に対する満足度は、「とても満足している」「やや満足している」を合わせると70.0%となった。
- ・観光産業以外（その他）の産業従事者と比べると、「とても満足している」は大きく変わらないが、「やや満足している」は観光産業従事者のほうが多い。

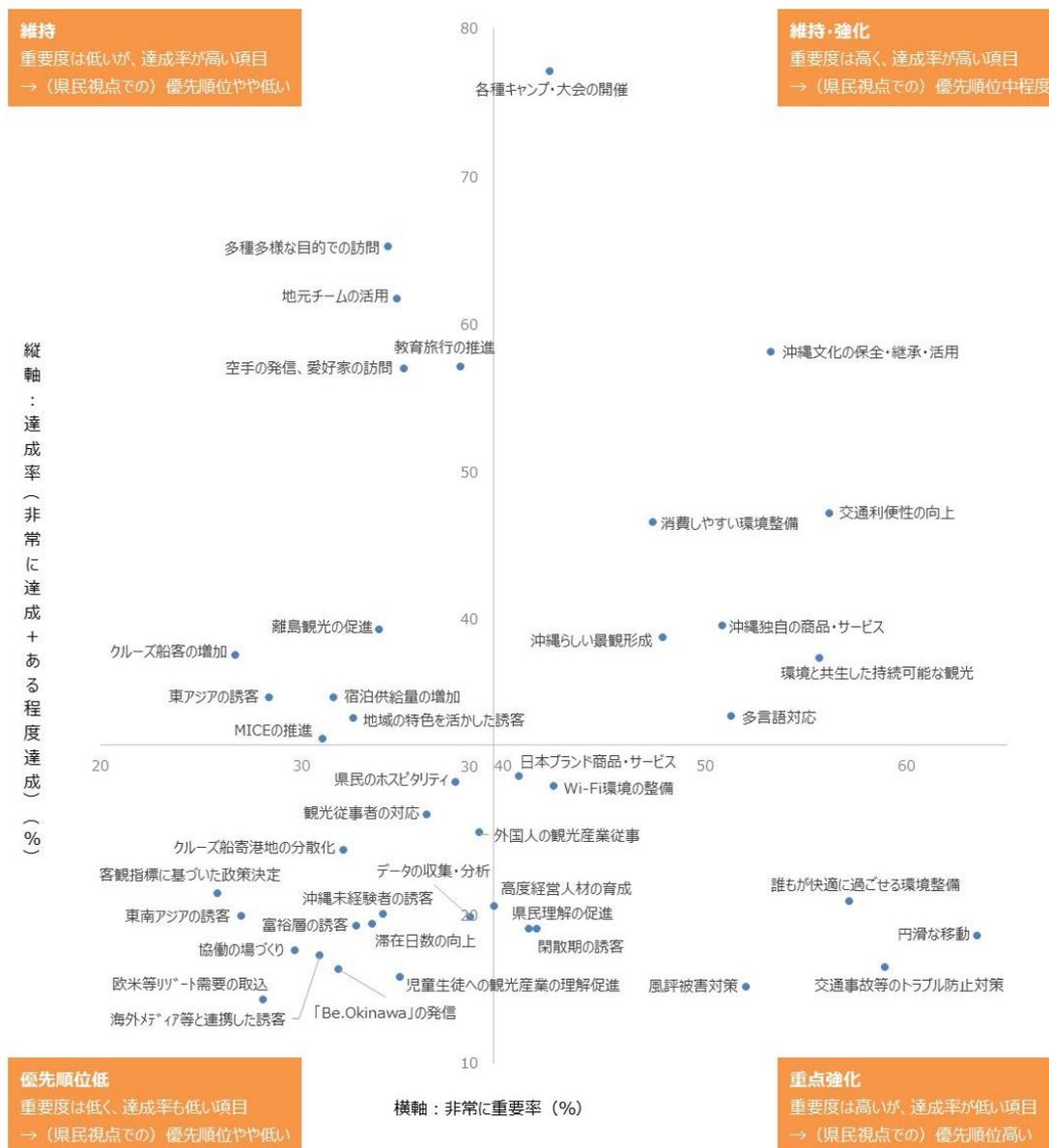
図表 現在勤めている職業に対する満足度（観光産業と観光産業以外）



4. 観光施策の重要度・達成度

- ・「各種キャンプ・大会の開催」「沖縄文化の保全・継承・活用」「交通利便性の向上」「消費しやすい環境整備」等は、県民にとって重要度・達成率ともに高い項目であることから、現状の沖縄観光の強みとして、維持・強化していくことが必要である。
- ・一方、「誰もが快適に過ごせる環境整備」「円滑な移動」「交通事故等のトラブル防止対策」等は、県民にとって重要度が高いにもかかわらず達成率が低位に留まることから、県民ニーズが高い施策であると考えられる。

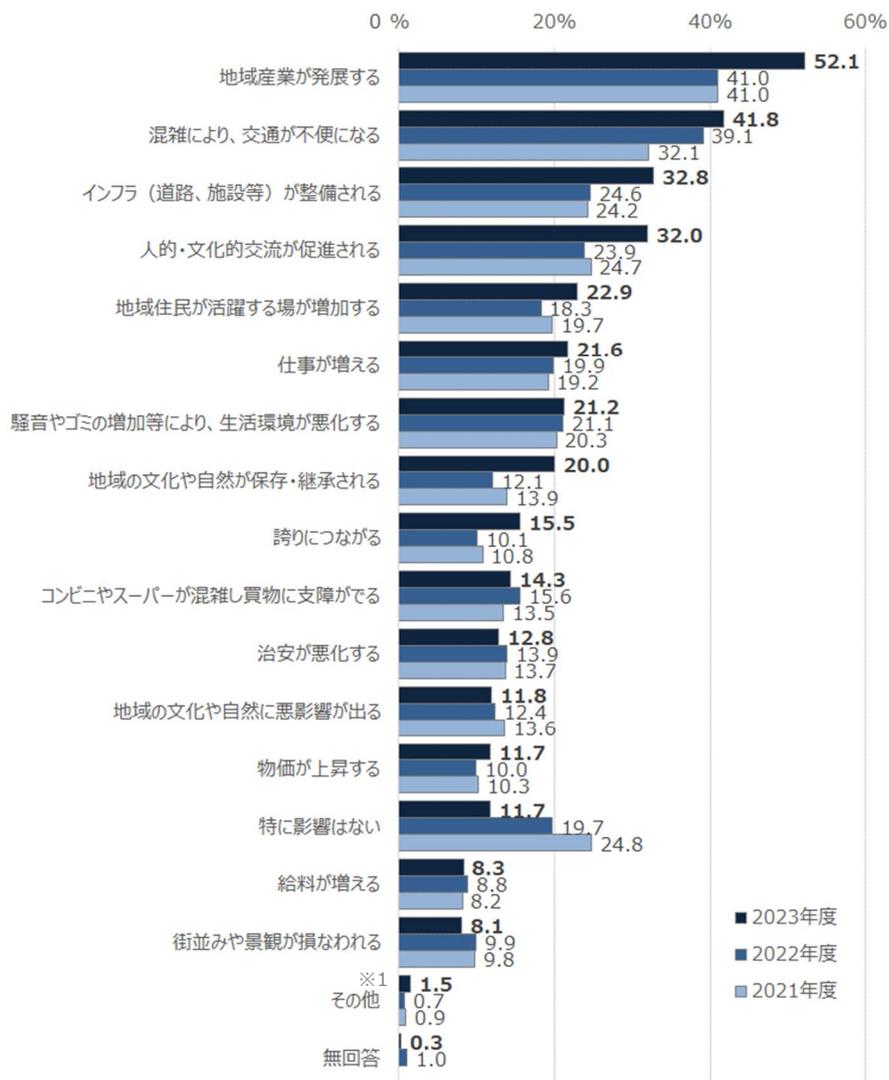
図表 沖縄観光の各施策の重要度と達成度の関係性



5. 観光客来訪による影響

- ・観光客が訪れることによる影響としては、「地域産業が発展する」が52.1%で1位となった。以下、「混雑により、交通が不便になる」41.8%、「インフラ（道路、施設等）が整備される」32.8%、「人的・文化的交流が促進される」32.0%、「地域住民が活躍する場が増加する」22.9%と続く。前回調査と比較するといずれも増加している。

図表 観光客が訪れることによる影響【複数回答】

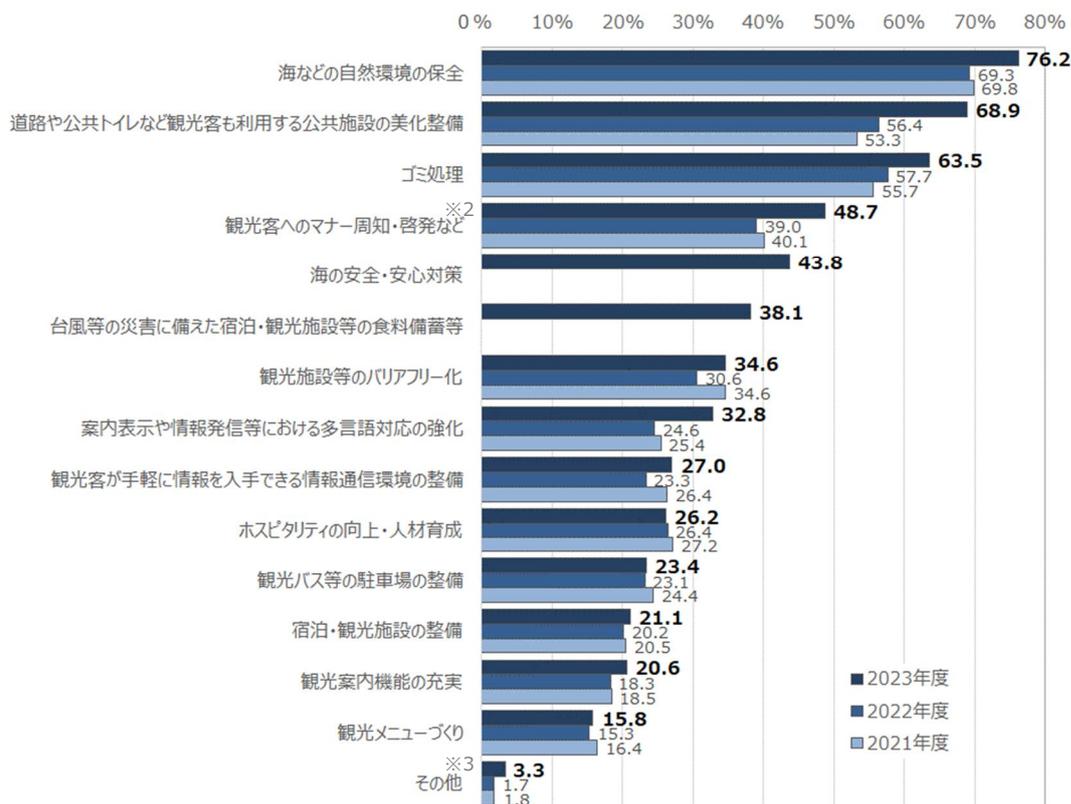


※1：「その他」の自由記述で挙げられた内容：感染症が増える／交通事故やルール違反が増える など

6. 観光税の導入に対する意識

- ・観光税の活用方法としては前回調査に引き続き「海などの自然環境の保全」が76.2%と最も多かった。次いで「道路や公共トイレなど観光客も利用する公共施設の美化整備」68.9%、「ゴミ処理」63.5%と続く。自然環境保全や環境美化への活用が多く望まれている。いずれも前回調査と比べて増加している。

図表 観光税を導入した場合の活用方法【複数回答】



※1：一部の選択肢は2023年度調査で新設されたものであるため、2022年度の結果が表示されていない。

※2：2022年度までの調査票では「観光パトロール」と表現されていた。

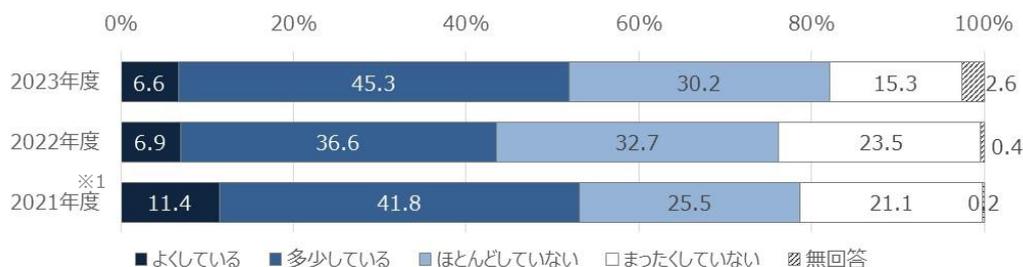
※3：「その他」の自由記述で挙げられた内容：県民への還元／貧困家庭の支援／道路の草刈り／鉄道インフラ整備 など

7. 持続可能な観光に対する意識

(1) 持続可能な観光の推進に関わる活動

- ・ 回答者自身の「持続可能な観光」の推進に関わるような活動については、「よくしている」「多少している」を合わせて51.9%が活動していると回答した。前回の調査からは8.4%の増加となった。

図表 持続可能な観光の推進に関わるような活動をしているか



※1：2022年度調査より調査票における「持続可能な観光の推進に関わるような活動の例」を変更しているため、2021年度調査の結果と単純に比較することはできない。

(2) 観光客に対する評価と理由

- ・ 沖縄県を訪れる日本人観光客と外国人観光客について、地域の人々の生活を尊重し、沖縄の自然や文化に敬意を有した旅行者としての行動が出来ていると思うか尋ねたところ、「とても思う」「やや思う」を合わせると、日本人に対しては38.7%、外国人に対しては26.2%、日本人と外国人を合算すると32.4%が行動できていると評価している。
- ・ 観光客の行動に対する評価が低い（「あまり思わない」「まったく思わない」と回答）人に対してはその理由も尋ねた。日本人、外国人いずれに対しても、「地域の文化や慣習が尊重されておらず、マナーが守られていない」が最も高いが、前回調査と比べると減少している。次いで、日本人に対しては「運転マナーが悪い」が高く、外国人に対しては「ゴミのポイ捨てが多い」と「運転マナーが悪い」が高い。

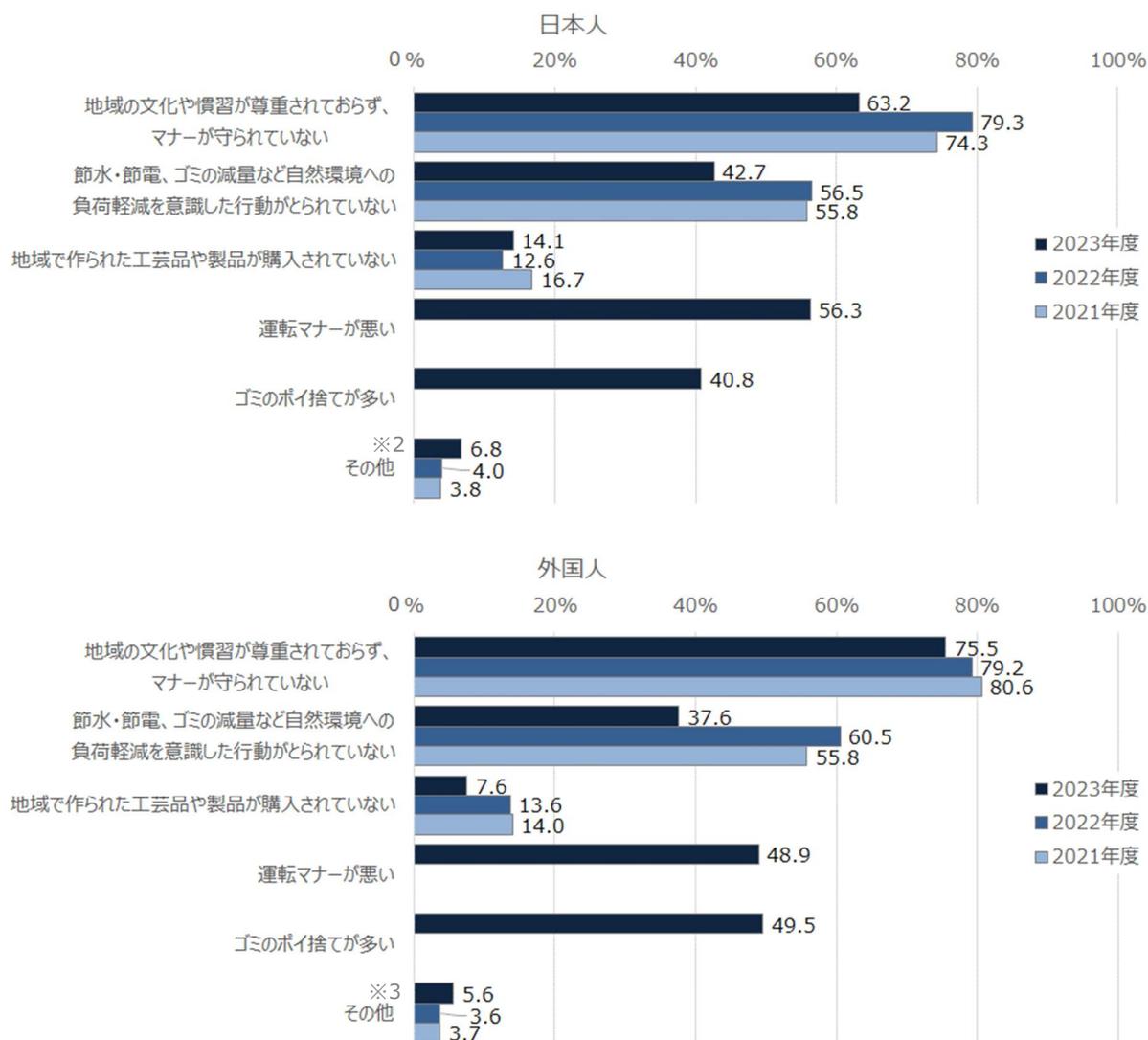
図表 観光客は地域の人々の生活を尊重し、沖縄の自然や文化に敬意を有した旅行者としての行動ができているか



図表 観光客は地域の人々の生活を尊重し、沖縄の自然や文化に敬意を有した旅行者としての行動ができているか（続き）



図表 （観光客の行動に対する評価が低い）理由としてあてはまるもの



※1：一部の選択肢は 2023 年度調査で新設されたものであるため、2022 年度以前の結果が表示されていない。

※2：「その他」の自由記述で挙げられた内容：横柄な態度をとる／差別している など

※3：「その他」の自由記述で挙げられた内容：大声で話すなどの騒音問題／トイレの使い方が悪い／態度が悪いなど

